

## 医療人育成センター開設にあたって

松嶋 範男

札幌医科大学医療人育成センター 教養教育研究部門長

医療人育成センターの教養教育研究部門は、優れた知的能力と人間的・倫理的資質を備えた医療および保健医療にかかわる医療人育成に重要な一翼を担っています。この目的を達成するため、平成20年10月、これまで医学部及び保健医療学部にも所属していた教養教育・一般教育系の教員が移行することになりました。本部門には、現在24人の教員が所属し、教授8人、准教授10人、講師4人、助教2人の構成となっています。初代部門長は賀左伸省教授でしたが、体調不良のため、急遽、平成21年1月1日から松嶋が部門長を引き継ぐことになりました。

学生の学力層が広がり、あるべき最低レベルが議論されはじめております。中央教育審議会は平成20年12月24日「学士課程教育の構築に向けて」（答申）をまとめ、学士力に関して次の4項目をあげています。(1) 知識・理解（文化、社会、自然等）(2) 汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）(3) 態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）(4) 総合的な学習経験と創造的思考力。本学においても、通信技術を利用したeラーニング等の試みが開始していますが、学士力をどのように育てるべきか、また、医療人において必須な教養は何か、真剣に検討すべきと考えています。

教育において、環境ではなく学生のやる気と努力を育てることが、如何に大切か思い知らされる経験がありました。招待講演を受けて参加したパキスタン・カラチ大学での国際会議において、主催者のIqbal Choudhary博士は、パキスタンとインドの国境紛争地帯のカシミールで生まれたこと、そして1979年ノーベル物理学賞（電磁的相互作用と弱い相互作用を統一する電弱統一理論）を受賞したパキスタン人・アブドゥッ・サラム博士が受賞賞金を基にした創設した奨学基金の援助によりなんとか研究者になることができたことを話してくれました。Choudhary博士が、どれだけ苦勞し努力したか想像するに余りあります。

やる気のある優れた医療人を育成するための、教養教育研究部門のあり方、組織、運営について、これまで十分議論されてきたとはいえません。そこで「教養教育部門将来構想委員会」が設置され、次の4点が主に議論されました。(1) 教授職の配置及び選考方法に関すること。(2) 教授会の参加を含めた准教授の職務のあり方に関すること。(3) 教室の再編・統合の方向性とそのプロセスに関すること。(4) 教育・研究予算の配分方法に関すること。委員長・森岡伸教授の下に、これらの事項は、入学者選抜企画研究部門、教育開発研究部門にも係りますのでそれらの部門長を加えた6人の委員、さらに他の教授、准教授にも参考人として加わっていただき、その答申書が教授会に報告されました。主な改正点は、大講座制（制限付き）を目指し、講師以上の教員を教授会に構成メンバーとする等です。これから、どのように医療人育成センターの組織・運営が改正されるにしても、全教員のやる気をこれまで以上に高め、研究・教育のみならず学内業務についても更に責任をもって参加しやすいセンターになることを期待しています。